

ずらかべぐ急し如がく行を道き遠てふ負を荷き重しは生一の人

(庵原水産課長談)

平安北道明線江口より清川江口に至る沿海線は百八十海里に亘り外に無數の島嶼あり魚介の生産豐饒にして西邊稀有の好漁場なるを從來支那密漁船の往來便利し韓人の漁業者甚るせしに乘じ漁業の利は多く彼等近年の突飛價値は見越し貨付をなすもの多かり獨占せられ空しく國利を遺棄しありしが漁

蚊。屋。

夜徹し待せて妻をつりて
主にや娘があふみ蚊帳
揚つ縫れつ苦説や海話で
何にが何やらかやの中
嘘どゆふべの怨みを胸に
胸はもぬぎの思も知らず
ぬしは情があさの蚊帳
食しい暮しも仲よい二人
はたに心ももらん蚊や

中山大綱

▲如何にして傳染する

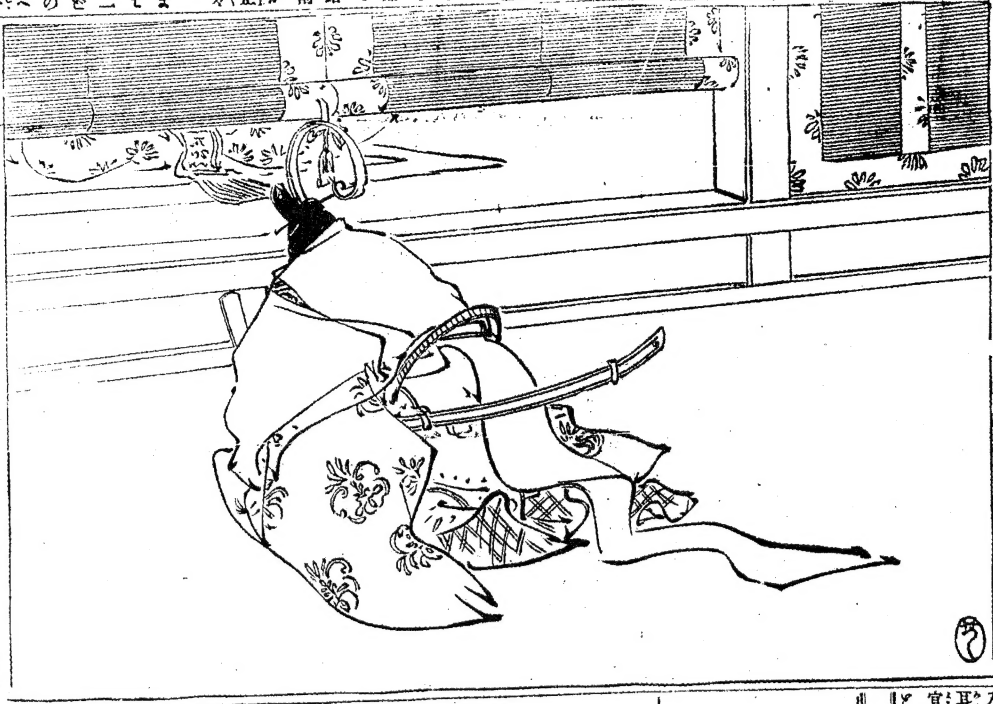
▲如何にして傳染するか
朝鮮マラリヤは臺灣と同じく全ク蚊に依りて傳播するものなるが就中學名「ユネエ」を稱する蚊族は普通の蚊と形体を同じくすれども停止の時に於て兩後趾を地に着けずつて上方に掲ぐるものにしてマラリア病毒の媒介者中最も恐るべき種類に屬す。棲息地は普通の蚊と同じく沮如水澤にして居留地邊にては老人亭附近に最も多く其汚水の邊り何れも感染著し之を驅除するには藥力を借るも一法なれども常に清水を通じて其棲息を防遏するを最良の方法とす。

親町の御南卿、寛政五年の正月廿六日参上。京都御發足と云ふことに相成る。
扱其頃には徳川の武蔵時代に盛んでございぬ。大抵の公卿は徳川士に慕ひて、御出でなまゝ、中に中山愛親卿は勤王無き御出でなまゝ、徳川士にならねど天下の大忠臣であらせられまして、志士と交際をなさいまして、當時中山卿は終身入りましたのが奥州仙臺を代々の藩主、或いは野州宇都宮の產藩生土着、谷村の産高山彦九郎など云ふ、寛政の外人と申して何れも突然でございます。

僻遠の地にて、はつふ樽陵島民は

●新漁業法と爵陵島民
交通不便なる僻遠の地に於て爵陵島民は六月に至りて漸く漁業法の發布を知りたる位にして島民は免許許可漁業といふ如き區別をも知らず釜山にて大體に通ずるを得如き次第なるが既に他地方人にて同島の漁權を占領せしもある由なれば是等に憾斷せらるゝことありては同島民の死活に關する問題なればとて島民代表者片岡吉兵衛は十

分けまして蒲生君平高山彦九郎など云人は、始終中山殿へ伺候をされて、大納言と無二の御恩意を致した。正親町の御兩關東御下向と云ふ時に、歌所柴山幸相、日頃中山殿とは御恩意でありますが、立振舞ひに御暇乞に御出向なされ、柴、現今度貴朝東御下向は一服し、苦勞に承知致す、どうも關東武威に任じ、鴨もすれば朝意に背き、誠に嘆かばし。



の中である」と一首の歌を遊ばして「孫生御達しになつた中山殿の外に喜び、厚
 素より道も分かの世に、降るは涙の天が下く禮を述べ、御收めになりました。鑑て
 かな」といふ一首を詠じました。一説には「駿府を立ち、あれから箱根に掛つて参りま
 王上の御數だと申しますが、是は全く榮した「箱根八里」は馬でも越すが越すに越さ
 山宰相が御歎みになつた歌。扱中山殿はこれの大井川」と云ふ古い傳説がございま
 近衛殿から御附になつた今大路民部少輔、當今と通つて昔は交通が賊に不便であ
 池田西本宮同小淵本は等の者は覆籠側つたのは、應と道中に大河成は絶所などを
 相違で池田行列美しく、引續いて正置いたんだと云ふ。箱根の石高道、なか
 親大納言、是亦行列美しく京都を御登りどうも歩行くには難儀でございする
 足、されば京都奉行久良因轉守から、御は掛つていらつしやと、江戸の方から
 南御出立の趣を取急いで關東、注進を致上つて來たのが松平重電監守と云ふ、向ふを

「わづ」も往來の真正中と大手を振つてゐる。たぐ履箱根の頭飯飯ど云ふ處に
つて来た。恰度、雙方から取合つて來
ますと、松平豊岐守の先登、平定右衛門
云ふ馬鹿野郎、バラツツと飛んで參り
して「コレ」、先刻から聲を掛けるに
故例に寄らつしやぬ、御客らつしやぬ
西太宮裏出まして「何と申す、御客らつ
やいと誰に向つて申す言葉、只今此へ
通行あらせられるは中山殿關東へ御下向
御道筋、此方から聲を掛けるに汝等耳に
の事は、あるまい、何の爲に目を光らし
を二つ附けて置く、大白痴奴、御客つて
しければ其方共側へ寄れ、無禮者奴ツ」
怒鳴り付けた。

廣 告

移轉廣告
 今般左記之廣仁社移轉仕候間此段廣告仕候也
 京城大和町丁目百〇七番地
 (舊新令部通)
 愛國生命保險株式會社
 京城大和町
 電話四〇二
 振替貯金東京一七六〇番
 產婆莊野キ又
 東京產婆學校卒業
 龍山十五間驛邊
 鐵道官舍十六號二

電話開通
一三五番

南山町一丁目

新荷着中元賣出

來る三十一日まで

京東

五百足限
圓十五錢均

一
張
二
十
五
錢

電話二〇五番

藤井出張店

草煙 卷
島
會商 京江 廣



▲中元御進物用品荷揃

歌米雜貨
洋酒食料品
洋煙草類
金寶屬美術品

直輸入商

京城本町二丁目
問三丁目

遷屋

本店 電話二四八番
支店 電話三六六番

三徳藥店

格ありたるに依り來る九月十五日更らに
部に召集して學術、口頭の本試験を行ふ

●金融組合と地方産業
度支部に於ては民福開發の唯一手段として
百ヶ所の組合の他尙は進んで是非一郡一々本部に於て役員會を開き、に借入方を
所大部には二ヶ所をも設置せん考にて來年支部に諸願したる元陸軍法院跡を事務所

度に件を決議したりと

既報龍山水道建設に就き水道會社より民團を好まざるに基因するものなるが一部居留を施行したる日本人警部設備試験答案審査の結果内務警務局及警視廳を通し四十名の合意に優等併し是西湖先生の作としての所

●龍山水道と會社要求

龍山水道に在るべき命令條件を具し形式的許可を與ふるは目下其筋に於て關

度に件を決議したりと

▲破倫……破德……の奨励

り閑話休題本年晩春福統盛は光澤號に搭じて
て南北韓の沿岸を縦察し五月十二日を以て
京城に歸着す時に東都よりの召命あり急速
旅装を纏へて京上の途に登らんとす、命は福
統盛に取つて吉か凶か、大體なる福統盛は
火事場で大便を果すが如く出立前の其忙敷
き中に於て團遊會を催したり、召命は果し
て吉なり。

稽首 あらん限の敬意を表したり鳴謝
呼我京城の貴婦人達より斯も尊敬を受ける彼
の怪女性は何人なるや

陀にて光り妾は旦那に依つて光る

住持は阿彌

の古言我を欺かす怪女性の本體は實に曾

爾統益の寵妾れや

會彌子爵が其副統監の舊衣を脱せんがため
の紀念、園遊會は五月十五日を以て、好遊園
に於て開かれたり、當日招待を受けて臨場し
たる來賓は其數無二千人に達し、御馳走は
山海の珍味、裝飾は善畫し、美畫したる來賓
何れも酔に酔ひたるが如く、外人、韓人、邦人の
別なく各歡樂の興を極め、好遊園は此世から
なる極樂淨土と化したりけり

●妻を逐て女郎を落籍

宴會に於ては、劉宛たる軍樂は起る來賓一同
襟を正せる間に陸軍樂隊は大通西湖先生手
作の有名な「春の曉めはれつちの春」を
唱へ、其文句意味深遠にして伺ひ知る能は
ざるも來賓一同は只阿となし一種の感に打
たれて唄の清きとは一齊に頭を擡ぐるを得
たり。

にや人の習にてもさしも煩くたる國邊に
はや實事の打出せしも煩くたる國邊に
びに喜び勇みに勇みたる來賓の大部分は今
は一程不愉快の念を以て鼓はるゝに到れり

食堂より出

金を受取り翌日其の内三百圓を以て前

十
一
號

九龍妻の 中年増二人 也 大官連の

夫人にしては釋過たりさればどて醜妻婦な
ごの癖なる嚴なる公式の宴會へ來るべしども
思はれされば何人ならんかと一人が疑へば
他も同様に諸人等しく此二人の淫女性に
向つて凝視することゝなれり

先妻の實父岸川伊七に對し鐵面皮にも
地より疊表二千枚及贈服品約八百圓程
買込みたるに四百圓不足に付送附せよと
電せしかば伊七は之を信じ松浦方に至り
を述べ四百圓を借りて送附したれば吉峰
之を受取るや仕濟ましたり此の金を持
かしくと共に妾を隠せしかば松浦は咄
つて弄へ出でたるは咄

▲**EDP** 品質精良且廉價にして御進物に最
適當なる高尚優美の土耳其・埃及**金口莫**

飛んで火に入る夏の虫
 ▲二階から警察署へ一足飛
 仁川宮町二丁目中上嘉作方雇人加藤伊三郎
 中此程或條件の下に許可せられ憲兵隊
 にて之を取締る筈なりと
 ●一奴拍子下落
 仁川般島遊廓は數
 島樓本店に嬢名を稱へしも落籍する人あり

三つと云ふは主人に信用せられ居るを利用
 し昨年三月頃より集金に出でる二軒の
 集金を新町に同じ店ある田上某と云ふ
 を連に、新町の飲食店初番、寺町一三亭及
 び七福亭等に登り身分不相應の散財をなし
 居たるが此の頃に至り海岸町西本多吉方外
 八十五軒より集金したる其の總額百九十圓
 を胡魔化したることを發覺し一昨日二階に
 一時衆人となり居たる先代奴事今の
 奴は近來の不景氣風に當てられて今夜
 梅之助、清松等と共に同支店に下り今夜
 店を張る由今昔の徳共如何ぞや
 ●三錢の損番暗渡 仁川京町二丁目
 道路にて一昨日午前十一時頃京町三丁目
 多福豆商人高野定之助と胡瓜賣内洞
 鄭鉄(鐵心)とが衝突したる機胡瓜三十二個

降り一目散に逃げ出したるが主人操作は直様裏口より追跡し賊々々々と呼びながら追ひ行きたれば如何な事三郎も最早叫はじと思ひ覺察に逃げ込み前記の大爺を逐一自白したれば目下取調中なりと

●支那人に撲らる 十七日午後六時頃肥料採取人夫清國人王春山(註)は他人の畠品を預け置き用達して歸途之を受取りたる内二畝を也の下等品と取替へ居る事をあらねば損害額大枚二十六錢の半額十三錢を高野が負擔して漸く事済みたりとは滑稽

●津商の惡智恵 當地釜菜町七番戶指物物商大商水口大吉(註)は一昨日南大門通り二丁目南口大(註)は方にて細引絹六匁清國人難賣商美國德(註)方にて同店を買ひ水の向は外に用事あればと

ては夕食中なるより裏より汲み取るべしと云ひしより言語の通せざる爲め取違はれど、さぞとせしより同家の操子三好友吉が戸外に押し出さんどせしに突然王は擔棒を以て同人の足部を毆打し微傷を負はしめたより其の筋に訴へ出で王は説諭せられ三好太郎は謝罪す

たも應ぜず論争の末其の危へ訴へ出しは爰は太閤玉を頂戴

大邊に醉臥し 昨日明治町二丁目泥酔して倒れ居る男あるより巡回中の巡警署へ同行醉の覺むるを待て取り調べ櫻井町一丁目八十五番戸山田方同居今太太郎とぞ知れ將來を戒められて引下

復居仕方長へて、この女は、
 住居仕方長へて遊びに行き、同入、妻金姓女の部
 下に、織節中尹相根なる者、同事に入り、来り
 李姓女と面白げに話し居る、折柄、同人の夫朴
 が来り、此の有様を見、て金姓女が、李姓女を
 引、相成との中を、取持ち、送逐せしめ、やに
 して、
 昨晨の爲め、休、休中なり、何れ、歐俊度、の影、
 昨今、の秋、冷、と共に、茲に、復、復、を、去、
 六日より、再び、歐俊度、の、軒、頭、高、く、正、
 轍、を、繰、し、
 氣、候、の、發、達、と、共に、人、の、心、も、
 氣、散、け、の、時、と、も、

を出して請ふ。古臭い演物であるが一寸目先の獲得を
を「贋造貨」發見敗。昨年七月より十二
打月に至る半期間にて贋造貨幣の發見は三
情たる數は一錢銅貨一個、五錢白銅六千三百
以五十三個、十錢二十二個、二十錢銀貨五百
保三十一個、五十錢銀貨七十七個、一圓紙幣
一枚、五圓紙幣千二百四十五枚、十圓紙幣
五枚にして五錢白銅の贋造は平安南北嶺最
に彼れは君江の饅頭に見入り込み三室か邊は

御進物に最
古・埃及
金口莫
及葉卷
小賣速に御來店御試み給へ見本

たる西井の君江は態度と容姿には言分はなかつたが臺辭廻しがドウモ氣に喰はん今少し深刻を要すると思ふが如何にや、其他條崎の照信、河野の房江、角村の綾小路、桂

木の百合子等何れも整んに活動して居たは
嬉しもの字

▲歌舞座座
一番目「白糸の夜」二番
目「喜劇・白糸の夜」三番
目「役留左の如し」

瀧の白糸事水島公(西井)隆晴、事金原
(仁科)流三、娘れみ(桂木)辨護士
相川省三、交中書長(玉川)河野妻れもの
新判事(角村)

演 替

上言新公(小谷)位陪牧事三短髮(天香)村
越欽欽(淺井正太郎)愛澤(交換手江口雪
子)三(堀内辰五郎)醫人花井(桐田剛助
崎)船護士(藤原辰巳)友人(平田榮造)美
(篠崎)壯士(嵐早進)北村(交換手井上)(有
村)同吉野(木下)

▲相談の相談

(何んでも御相談に應じ弁)

妻と迎へるなら懸やを界羊と逢へ

口に「**身元**」と云ふ。朝三暮四、遠慮なしで親爺には「若い女にやうな物を買つては後で取返さぬの付かれ後悔するぞ」と云つて反對します。家柄や血統や財産などが何んなに完然でも一面識ない女は買ひ渡くない矢張り多少の金遣ひ入力は悪いと思ひます。死張郎の御幸

たはよいでせうか(總角生)

貴君の御考へもれ考へてしては云々

極だか實際問題としては御親父云々

答

仰云る事が着實と云はねばならぬ、財

は意に角として家兩とか血統とかは充分

人ばかりで無い事を信ぜしむるには何う

たふことを云ひました。女房は當節思召な
ので妻としてからの行勅は豫期せられる
のでない、當るも當らぬも運だ、此れ
少し極端だが、マア似似た様なもので
勿論在韓の婦女と雖ども惡人計りでない
とは御親父も萬々御承知なのです反證を
ける必要はないと思ふ、僕は御親父のれ
に賛成する、併し此れと見極めた御人が

御來店御試み給へ見本無代直輸入商
日希商會

アサニ
ビール

●天氣豫報(自十八日午後六時
西の風曇後晴
十七日(藤氏) 最高溫度 七二・一
最低溫度 六八・一

新發明三効式測量法教授
 (要則者自ら教授ス)
 米國 フランシス・J・マニエ 土木工學
 當ヶ月卒業生 土木工學上級狀ヲ授與ス
 本校優等卒業生ハ諸官衙ニ就職ノ途ヲ與
 私立 京城黃金町農商工部側
 山崎土木建築實修學


京城南
新
藥劑師
瀛車
人力車
往復天
昇輿乘

靈泉 溫
旅館 日本
郵便 電報

綿 **わた**
ふとん地色々ふとん
京城明
卸問屋

日希商會

今村商店
 純良
 毒


韓國畜産會社
 南大門外(電話八八番)

検査済

債權譲受けたし
 貸付金 割掛代金 其他 般の債權を現金
 にて譲受け申候に付き譲渡し希望の方は
 御申込み致度候
 京成長谷川町一丁目

大門通三丁目
井藥房
小松
禎本
三店

陽溫宗 效能顯著

唐川商店

調進、太物類、洋反物類

治町一丁目四ツ角

電話二六二

日希商會

100

100

-171-

1

第 1 页

朝日石鹼製造所

諸染料類
東京金港堂發行書籍特約店
東京區南區
一丁目十番地
電話新橋三九六二

文正公集卷之二十一

右今回弊店に於て販賣開始仕候間續々御命令被仰付度充分大勉強御高需に可應候

京城本町五丁目

●新開料 拾壹號 六ヶ月前金貨買取 買取一ヶ月は
●廣告料 ▲五號活字十九字請一行一圓五十錢 ▲特等
廣告五號活字十九字請一行金六十錢
●發行業員個人 高木久馬 仲一 太郎